

2-P-7

看護学臨地実習科目におけるクライテリオン設定とその評価に関する調査研究

鎌田美智子
長尾厚子 尾崎雅子 島内敦子

【目的】本研究は看護系大学の臨地実習科目の目標設定において、どのようなクライテリオン（到達規準）の内容を設定し、その到達をはかっているのかの実態を、目標設定における「事柄と能力」の側面と、「目標間相互の構造化（ねらいとねがい）」の2側面から把握したものである。【研究方法】看護系大学 70 校。質問紙調査と一部半構成的面接。実習要領提示の要請。データ分析は記述統計処理、KJ 法・プロトコル分析。【結果及び考察】22 校から回答(31.4%)。面接と実習要領の提供は 6 校。すべての目標に「事柄と能力」の設定は 63.3%、部分的に設定は 36.4%と、ほぼ全大学が設定していた。その際「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達度（H23 文科省）」の活用が 95.5%で、標準的な内容設定であることがわかった。「能力」の側面ではブルームらの 3 領域（認知・精神運動・情意領域）の活用が 81.8%であった。しかし情意領域の目標設定の例示（21 項目）を見ると、内面化や価値観をイメージする妥当な表示とともに、そのままの表現では「認知領域、精神運動領域」と見紛うものが含まれていた。情意領域は行動目標に似ているが、他の領域と異なり、全体像の一側面（観点）に過ぎない。このため教え・学ぶ場面や評価資料の明示がなければ適切な到達評価は難しいと思われるが、実習要領による表示は皆無であった。実習目標相互を重層化して、的確な到達を考慮している大学は 59.1%であった。

2-P-8

在宅で生活する精神障がい者と家族のストレング스에焦点を当てた支援方法の検討 —訪問看護師のストレング스에への着目点とケアの成果—

西出順子
木村聡子 鵜飼知鶴 畑 吉節未

【はじめに】「ストレングス」は精神障がい者の強みを生かす“肯定的で新しい視点”を提供している。近年、在宅看護においてストレングスに着目した支援方法は広がりを見せているが、ストレングスに関する研究報告は見当たらない。今回、訪問看護師が精神障害を有する療養者に対して、独自の方法で行っているストレングスに着目した支援方法を明らかにすることを目的に研究を行った。【研究方法】[研究対象]A 県下の訪問看護ステーション 6 施設、各施設管理者に推薦された看護師 10 名[研究期間]平成 28 年 9 月～平成 29 年 2 月[研究デザイン]質的記述的研究[分析方法]意味的類似性からカテゴリー化を図った。【倫理的配慮】神戸常盤大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。【結果】当研究では訪問看護師が着目したストレングスについて報告を行う。分析の結果 106 の記述、以下の 6 カテゴリーを抽出した。＜自己の感情を自覚できる＞＜自己の感情を表現できる＞＜他者と関係を作ろうとする＞＜他者を意識する＞＜自分を支援する関係や資源を持っている＞＜状況を理解し行動できる＞【考察】ラップのストレングスの項目から見ると、看護師は「技能・才能」「関心・熱望」「環境のストレングス」に着目しやすいたことが分かった。さらに「性質・個人の特性」の視点が加わると看護の質がより向上すると考える。今後はストレングスを用いて、どのような成果を看護師が導いたのかを明らかにしたい。